

「西東京市 日本語スピーチコンテスト2021」



NPO法人
西東京市多文化共生センター

--- 発表者の皆さん ---



シュエ ビン
薛 冰 さん



リ エイ
李 銳 さん



ニューンハム
サリーアン さん



シュエイケン
鄒詠軒 さん

--- 審査員の皆さん ---



西東京市長 池澤隆史さま



武蔵野大学名誉教授
(学長代理) 堀井恵子さま



NIMIC代表 山辺真理子



レティヴァン さん



モラフィー さん



ハンコイ
范子怡 さん



皆さん、揃って〜

はい、チーズ!

も く じ

- ❖ 「西東京市日本語スピーチコンテスト2021」 ……1
～コロナに負けずにオンライン開催～
NPO法人西東京市多文化共生センター代表理事 山辺 真理子
- ❖ ごあいさつ ……3
西東京市長 池澤 隆史
- ❖ 多文化共生社会の実現を目指して ……5
武蔵野大学学長 西本 照真
- ❖ 「ともに住み、ともに生きる」を実感 ……7
実行委員長 中村 純恵
- ❖ 日本語スピーチ
- 1. 薛 冰 (中国) ……10
「日本に来て驚いたこと」
19歳、2016年1月に来日しました。今は東京経済大学コミュニケーション学部の1年生です。
- 2. 李 銳 (中国) ……13
「障がい者への偏見はどこから生まれるのか」
東京デザイナー学院に通っています。日本のデザイン、イラストや障害者の美術活動に興味があります。
- 3. モ ラフィー (インドネシア) ……18
「日本で作るおいしいインドネシア料理」
趣味はサッカーです。インドネシアのことをみんなに知ってもらうために応募をしました。
- 4. 范 子怡 (中国) ……21
「人生の旅、他人にペースを乱されないように」
中国から来ました。2018年に日本に来て、日本語学校で勉強して、今は武蔵野大学2年生です。
- 5. レ ティ ヴァン (ベトナム) ……25
「私と日本語」
2018年にベトナムから来ました。技能実習生です。よろしくお願いします。
- 6. 鄒 詠軒 (台湾) ……28
「日本の文化を学ぶことは大切だ」
早稲田外語専門学校で学んでいます。趣味はバスケット、ピアノ、ゲーム、映画などいろいろあります。
- 7. ニューンハム サリーアン (イギリス/アメリカ) ……31
「洋裁で変わった私と服の付き合い」
アメリカに10年住んで昨年日本に参りました。日本人と結婚して、8才の息子がいます。
- ❖ 会場の風景 ……39
- ❖ 表彰式 ……41
- ❖ ポスター・チラシ ……43
- ❖ 協力・主催 ……45

「西東京市日本語スピーチコンテスト 2021」

～コロナに負けずにオンライン開催～

NPO 法人西東京市多文化共生センター代表理事

山辺 真理子

初めてのオンライン開催となった「西東京市日本語スピーチコンテスト 2021」では、日本での暮らし方も日本語学習歴も様々な7人の方々が、それぞれの思いを語っていただきました。この会の趣旨は、日本語を母語としない人が、日本語のレベルに関わらず、自分の思いを自分で語ることに、それを日本人住民をはじめとしてその場にいる人たちが聞き、思いを共有することです。今年は、発表者は多文化共生センターに集まりましたが、観覧者はzoomの画面上で話を聞くので、お互いの距離が遠いままではないかと心配でした。でも、それは杞憂に終わりました。自分の体験や思いを自分の言葉で語ることがどれほど力を持つかを、皆さんが寄せてくださった感想から実感することができました。

コロナは私たちの日常生活を一変させ、飲食を伴ったり身近に触れ合う交流活動はできなくなりました。ただ、時間や場所、体力などを問わずオンラインでつながるという方法で、今回のような取り組みもできました。サステナブルな世界に向けて省エネという良い面もあるでしょう。この記録誌も、従来は印刷した冊子でしたが、今年からweb上に掲載し、発表者の友人たちや、発表しようと思う人たちも気軽にアクセスできる環境を整えました。今後も、多様な人々の生の声に接しながら多文化共生社会に一步步近づいていければと思います。

開催にご尽力いただいた方々、発表者、観覧者、スタッフはもちろんですが、共催相手の西東京市、第1回から協力してくださっている武蔵野大学に感謝を捧げます。今年は前実行委員長の海外転居に伴い、新たな実行委員長の元での実施でしたが、初めての開催形態にもかかわらず、みんながよくまとまり素晴らしい会になりました。

来年は、コール田無の舞台上、例年通り、子どもメッセージでスタートし、最後は発表者と観客が親しく語り合う交流会まで開催できることを願っています。

ごあいさつ

西東京市長 池澤隆史

ことし
今年の「西東京市日本語スピーチコンテスト 2021」は、^{しんがた}新型
コロナウイルス^{かんせんしょうたいさく}感染症対策を講じた^{こう}結果、^{けっか}初めての^{はじ}オンライン
開催^{かいさい}となりました。

このスピーチコンテストでは、^{はっぴょうしゃ}発表者の^{みなさま}皆様が、^ひ日々の^{せいかつ}生活
の中で^{なか}感じた^{かん}ことや^{おどろ}驚いた^{しんせん}こと、^{しんせん}新鮮に^{ぼこく}感じた^{ぼこく}こと、^{ぼこく}母国へ
の^{おも}思い等を^{など}発表^{はっぴょう}していただく^{はっぴょう}ことで、^{はっぴょう}どのような^{おも}思いを
持つ^もて生活^{せいかつ}しているのか^{せいかつ}感じる^{せいかつ}ことができる^{きちよう}貴重な^{きかい}機会^{きかい}であ
ると思^{かんらん}っております。また、^{みなさま}ご観覧^{とも}の^{とも}皆様と^{とも}共に、スピーチを
^き聞く^きことで、^{かんどう}感動^{きやうゆう}を^き共有^{きやうゆう}できた^{うれ}こと、^{うれ}とても^{うれ}嬉しく^{うれ}思っ
ております。

西東京市では、^{こんかい}今回の^{こんかい}スピーチコンテストの^{しゅさいしや}主催者^{しゅさいしや}である
「^{とくていひえいりかつどうほうじん}特定非営利活動法人^{たぶんかきやうせい}西東京市多文化共生センター(NIMIC)」
と^{れんけい}連携^{れんけい}し、^{がいこくせきしみる}外国籍^{かたがた}市民^{かたがた}の方々^{そうだん}の^{たげん}相談^{たげん}や^{ごじやうほう}多言語^{ごじやうほう}情報^{しゅうしゅう}の^{しゅうしゅう}収
集^{しゅうしゅう}、^{じやうほうはっしん}情報^{じやうほうはっしん}発信^{じやうほうはっしん}のほか、^{じつげん}多文化^む共生^むの実現^むに向け、^{こと}異なる^{ぶんか}文化^{ぶんか}への

^{りかいそくしん}理解^{はか}促進^{はか}を図^{はか}る^{はか}イベント^{じっし}等の^{じっし}実施^{じっし}など、^{じっし}多文化^{じっし}共生^{じっし}社会^{じっし}の
^{けいせい}形成^{すず}を進^{すず}めるための^{とく}取り組^{とく}み^{じっし}を^{じっし}実施^{じっし}しております。

^ひ引き続き、^ひ外国籍^{ちいみしゃかい}市民^{ちいみしゃかい}の方々^{さんか}の^{さんか}地域^{さんか}社会^{さんか}への^{さんか}参加^{さんか}の^{さんか}機会^{さんか}を
つくり、^{さんか}さまざま^{さんか}な^{さんか}生活^{さんか}、^{しゅうかん}習慣^{ぶんか}、^{ぶんか}文化^{ぶんか}の^{ぶんか}違い^{ぶんか}等^{ぶんか}に^{ぶんか}対^{ぶんか}する^{ぶんか}理解^{ぶんか}
を^{ぶんか}深^{ぶんか}めて^{ぶんか}いき、^{ちいみ}この^{ちいみ}地域^{ちいみ}で^{ちいみ}暮^{ちいみ}らす^{ちいみ}す^{ちいみ}べ^{ちいみ}て^{ちいみ}の^{ちいみ}皆^{ちいみ}様^{ちいみ}が^{ちいみ}多^{ちいみ}様^{ちいみ}性^{ちいみ}を^{ちいみ}
^{みと}認^あめ^あ合^あう^あこ^あと^あが^あで^あき^ある^あ社^あ会^あの^あ実^あ現^あを^あ目^あ指^あし^あて^あま^あい^あり^あたい^あと
^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}て^{かんが}お^{かんが}り^{かんが}ま^{かんが}す^{かんが}ので、^{りかい}皆^{りかい}様^{りかい}の^{りかい}ご^{りかい}理^{りかい}解^{りかい}と^{りかい}ご^{りかい}協^{りかい}力^{りかい}を^{りかい}お^{りかい}願^{りかい}い^{りかい}た^{りかい}
し^{りかい}ま^{りかい}す^{りかい}。

^{むす}結び^{むす}に、^{むす}今回^{むす}の^{むす}スピーチ^{むす}コンテスト^{むす}開^{むす}催^{むす}に^{むす}ご^{むす}尽^{むす}力^{むす}いた^{むす}だ^{むす}き^{むす}
ま^{むす}した「^{じんりよく}特定^{じんりよく}非^{じんりよく}営^{じんりよく}利^{じんりよく}活^{じんりよく}動^{じんりよく}法^{じんりよく}人^{じんりよく}西^{じんりよく}東^{じんりよく}京^{じんりよく}市^{じんりよく}多^{じんりよく}文^{じんりよく}化^{じんりよく}共^{じんりよく}生^{じんりよく}セ^{じんりよく}ン^{じんりよく}タ^{じんりよく}ー
(NIMIC)」の^{きやうりよく}皆^{きやうりよく}様^{きやうりよく}を^{きやうりよく}は^{きやうりよく}じ^{きやうりよく}め^{きやうりよく}、^{きやうりよく}ご^{きやうりよく}協^{きやうりよく}力^{きやうりよく}いた^{きやうりよく}だ^{きやうりよく}き^{きやうりよく}ま^{きやうりよく}した^{きやうりよく}学^{きやうりよく}校^{きやうりよく}法^{きやうりよく}人^{きやうりよく}武^{きやうりよく}蔵^{きやうりよく}野^{きやうりよく}大^{きやうりよく}学^{きやうりよく}の^{きやうりよく}皆^{きやうりよく}様^{きやうりよく}、^{きやうりよく}そ^{きやうりよく}し^{きやうりよく}て^{きやうりよく}ス^{きやうりよく}ピ^{きやうりよく}ー^{きやうりよく}チ^{きやうりよく}コ^{きやうりよく}ン^{きやうりよく}テ^{きやうりよく}ス^{きやうりよく}ト^{きやうりよく}に^{きやうりよく}ご^{きやうりよく}参^{きやうりよく}加^{きやうりよく}い^{きやうりよく}
た^{きやうりよく}だ^{きやうりよく}い^{きやうりよく}た^{きやうりよく}す^{きやうりよく}べ^{きやうりよく}て^{きやうりよく}の^{きやうりよく}皆^{きやうりよく}様^{きやうりよく}に^{きやうりよく}心^{きやうりよく}よ^{きやうりよく}り^{きやうりよく}感^{きやうりよく}謝^{きやうりよく}申^{きやうりよく}し^{きやうりよく}上^{きやうりよく}げ^{きやうりよく}ま^{きやうりよく}す。

多文化共生社会の実現を目指して

武蔵野大学学長 西本 照真

第10回となる西東京市日本語スピーチコンテストが、本年も盛大に開催されましたこと、心より御祝い申し上げます。

武蔵野大学の武蔵野キャンパスは西東京市新町に位置し、1929（昭和4）年のキャンパス開設以来、地域の皆様のご支援とご協力を賜りながら、西東京市地域の大学として根付いて参りました。そして、2016（平成28）年からは『世界の幸せをカタチにする。』を本学のブランドステートメントとして宣言し、世界の幸せをカタチにするために、学生、教職員、本学に関わりのあるすべての人々が感性、知恵、響創力を高め合うことを推進しています。本学のこの考え方は、西東京市多文化共生センター（NIMIC）様の活動理念『異なる文化的背景を持つ人々が、宗教や信条、生活習慣の違いを互いに理解し尊重し合い、偏見や差別意識を持つことなく、共に地域で暮らす「多文化共生社会」を築くことで、世界平和に寄与すること』に

通じる考えです。そのため同じ西東京市に位置する西東京市多文化共生センター様の活動をこれまでも永らく応援して参りました。

また、西東京市多文化共生センターの皆様には、本学に在籍する留学生の日本語力向上のために様々なご尽力をいただいております、心より感謝申し上げます。武蔵野大学では830名ほどの留学生が勉学に励んでおりますが、母国とは生活習慣や文化の異なる日本で生活することは、決して簡単なことではありません。本コンテストの参加者の皆様をはじめとして、西東京市にお住まいの多様な文化をお持ちの皆様においても、日本語の習得のみならず人と人とのつながりを大切にしながら、地域社会へ溶け込もうと努力をされている姿に深い感銘を覚えるところです。

本学はこれからも西東京市多文化共生センターや西東京市をはじめ、地域の皆様との交流を通じ、多文化共生社会の実現を支援して参ります。関係者の皆様方には、本学についてこれまで同様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「ともに^す住み、ともに^い生きる」を^{じっかん}実感

実行委員長 中村純恵

「ともに^す住み、ともに^い生きる」は、^{さくねん}昨年、HPのリニューアル時に決まった、NIMICのキャッチフレーズです。^{こんかい}今回、スピーチコンテストの運営に携わり、^{ことば}ことのほかこの言葉を^{じっかん}実感いたしました。

7名の^{めい おも}想いのこもったスピーチには、^{れいねん ま むね}例年にも増して、胸が^{あつ}熱くなりました。^{がいこくご}外国語でスピーチを^{はっぴょう}発表することは、^{ゆうき}勇気のいることだと思ひます。^{おも}ご本人が^{ほんにん いちばんが んば}一番頑張ったことは^{まちが}間違いありませんが、^{ひとり}きっと一人だけではなすことができなかったと思ひます。^{はっぴょうしゃ まわ かぞく がっこう しょくば}発表者の周りには家族、学校、職場、または^{にほんごきょうしつ}日本語教室などの^{ちいき}地域の^{ひとびと}人々の^{ささ}支えがあったことが^{かん}感じられました。^{あらた}改めて、^{すば}西東京市には素晴らしい人たちが、^すともに^い住み、ともに^{ほこ}生きているんだと誇らしく思ひました。

また、今回のコンテスト^{かいさい}開催におきましては、^{じっこういん}実行委員の^{じんりょく}尽力に^{ふか}深く^{かんしゃ}感謝いたします。^{こんか しんがた}今夏の^{かんせん}新型コロナウイルス感染^{きゅうかくだい}急拡大を受けて、^う初めて^{はじめ}オンラインで開催することにいたしました。が、^{ちしき}IT知識に^{あか}明るいとは言えない^い私たちが^{たんきかん}短期間で開催することが^{とうじつ}できるのか、^{はんしんはんぎ}当日まで半信半疑でした。なんとか開催し、^おコンテストが^{かんらんしゃ}終わって、^{あたた}観覧者のみなさまから^{かんそう}温かい感想を^よ寄せていただいたときには、^いやってよかったという思ひで^{ことば}いっぱいになり、「ともに^す住み、ともに^い生きる」という言葉が^{ふたた}再び^{あたま}頭に^う浮かびました。

^{ほんらい}本来であれば、^{ふしめ}節目となる^な第10回^{なにとくべつ}ということで、何か特別^{しゅこう}な趣向を^{きかく}企画した^{せいやく}かったところですが、^{おお}制約の多い中、オンライン開催とな^かってしまいました。第11回からは、^のコロナ禍を^こ乗り越えた^{ちえ}知恵とともに、^{ひろ}地域のつながりがさらに^{ひろ}広がり、^{かくしん}パワーアップしたコンテストとなることと^{かくしん}確信しています。

初のオンライン開催

西東京市日本語スピーチコンテスト2021

本日はオンライン開催にご参加いただきありがとうございます。
開催まで今しばらくお待ちください。

2021年10月3日 13:30~15:30

お願い

- ・ マイクをオフ(ミュート)にしてください。
- ・ 録音・録画・撮影(スクリーンショットなど)および、それらの転用やSNSなどへの掲載はご遠慮ください。
- ・ Zoom画面の画像を市やNIMICのホームページ等に掲載することがあります。支障がある場合はご自身のビデオをオフにしてご覧ください。
- ・ ホストの側で皆様の音声のミュートやビデオ画面の停止を強制的に実行することがあります。予めご了承ください。

発表者の方々

主催：NPO法人 西東京市多文化共生センター
共催：西東京市

開会時刻までオンライン参加の皆様には
こちらを画面表示

◆日本語スピーチ

① 「日本に来て驚いたこと」

シュエ ビン
薛 冰 (中国)

こんにちは、シュエビンです。出身は中国です。今は、大学1年生、日本に来て5年半経ちました。今日は、今まで日本で感じた不思議なことを紹介したいと思います。

中国は欧米に比べて、距離でも、文化でも割と日本に近いのに、なぜ様々な不思議なことがあるのだろうと何回も考えました。

日本に来てから最初に気づいたことは、日本では、いつでもどこでもマスクを着けている人がいることです。中国では、医療関係者と空気感染や防寒対策でしかマスクを着用しません。日本では、なぜ一年中どこであってもマスクをつける人がいるのだろうと高校のクラスメイトに聞いたら、花粉症とウイルス対策を答えてくれる人が多かったです。しかし、

ウイルスと花粉は別に一年中にずっと存在するものではないのに、本当の答えは何か今でもわかっていません。

二つ目は、電車の中や繁華街のような、人が混雑している場所で、カバンが開けっ放し、そして長財布の半分がポケットから出ている人がたくさんいることです。最初にこのような場面を見たとき、自分がその本人よりも焦っていたことがいまでも印象に残っています。今はすでに慣れていました。そして、自分もその一員になりました。一回だけ中国に帰国したことがあります、カバンを開けっ放しで街中で歩いていたら、祖母に叱られた経験がありました。



次に驚いたことは、公共トイレです。それは、小学校頃、旅行のために日本に来た時のことです。成田空港に到着したあと、母親に「日本のトイレは非常にきれいだよ」と言われて、「どれほどきれいでもトイレじゃない」と全く興味がありませんでした。しかし、入った瞬間にフワッといういい香りが鼻に来て、数枚ピカピカの大きな鏡と洗面台が目に入りました。場所を間違えたと思ってすぐそこから出ましたが、確かにトイレと書いていると何回も確認し、ドキドキしながら入りました。

日本にいるこの五年間の間に、最初のたくさんの違和感から今の当たり前まで、環境は人に大きな影響を与えるものだとして強く感じました。今はもし自分の故郷に戻ると逆に慣れるのに時間がかかりそうです。



② 「障がい者への偏見はどこから生まれるのか」

李 銳 (中国)

人々はなぜ障害者に偏見を持っていますか？私が調査した大部分の人は障害者の特別な行為がおかしいと思います。彼らは障害者についてよく知らないから、偏見が生まれたのです。

私が中国の湖北省の特別支援学校でボランティアをしていた時、授業中にとある子供が騒いでいた。何回か慰めても効果はなく、その後彼はドアを開けて外に出ようとした。私が彼を阻止すると、彼は床を転げ回る。私は彼を起こそうとしたが、彼は起きようとしない。そして床の上で、もがき続けている。そして彼は、私の目を盗み、さっと逃げ出した。檻から逃げた鳥のように、いくら追いかけても追いつけない。

この子供に限らず、他の子供も似たような現場を見たこと

がある。授業中に急に立ち上がったり、頻繁に教室の中を立ち歩いたり、机や椅子を頻繁に倒したり、教室の鍵をチェックしたりなどの行動である。また、授業中に大声で叫んだり、自分の頭を叩いたり、こういった行動によりイライラした気持ちを表している。私にはこれらの行為が全て理解できなかった。

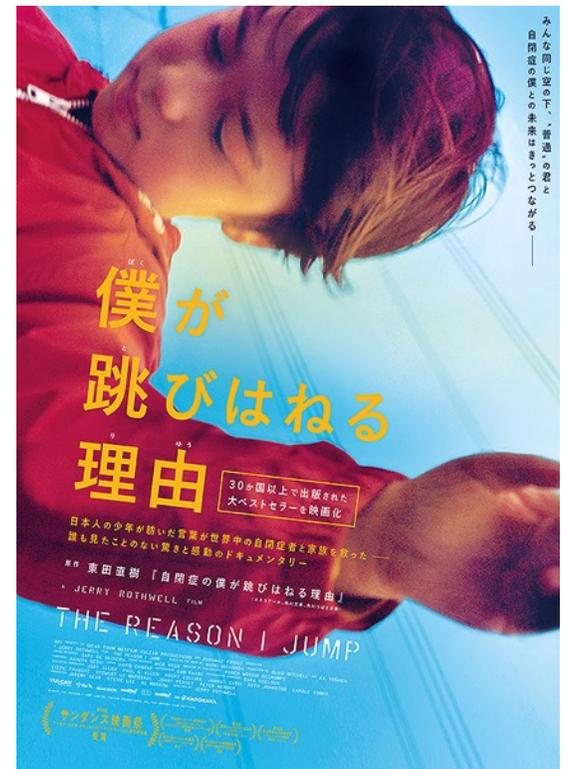
なぜ彼らは外に飛び出すのか？なぜこのようにイライラしているのか？彼ら自身が自閉症だからなのか、それとも他の感情表現なのか？そこで私は、各種文献資料の中で解答を探し始めた。



ドキュメンタリー映画「自閉症少年の世界」を通し、自閉症の作家東田直樹さんを知った。彼の著書『自閉症の僕が跳びはねる理由』で、自閉症の患者がなぜ私たちには理解しがたい行動をするのか、その理由を見つけた。例えば彼らは、絶えず自分の頭を叩くことによって、気持ちを晴らそうとしている。これは彼が自閉症の症状を克服しようとするためであるが、克服することはできない。このような葛藤は彼をより苛立たせる。彼は 他人に干渉されたくない。

誰かが介入すればするほど、彼はがっかりした気持ちになり、自分を殴ろうとしてしまう。この時彼は、このような状況に直面してどうすることもできない自分を責めている。また、彼らの行動は、彼ら自身にとっても理解できない行動なのだという。自閉症の患者は、思考と行動の間に断層が発生してしまう。脳が指令を出すことができず、彼らは言いたいことややりたいことを実行することができなくなり、コントロールできない無力感が 彼らを苦しめる。

その後の文献調査では、例えば自閉症児の聴覚に関する論文において、自閉症児の聴覚能力の二極化が発見された。一部の聴覚は普通の人より敏感で、一部の聴覚は鈍感である。このことから現されるように、あなたが話しかけたとき、彼らはあなたに返事をしないかもしれない。彼らには聞こえていないかもしれないので、その体に触れて、そっと彼らに注意するとよい。そうやって私達は彼らと交流している。





自閉症患者は痛みに鈍感なため、時には鋭いものを持って自分を刺したり、テーブルをたたいたりしていることが見られる。彼らは外部からの刺激を必要とし、自分に痛みを感じさせようとする。

これらの文献調査を通し、児童がなぜ突然自傷行為をしたり、繰り返し出現したステレオタイプな現象、いらだちをあらわにする理由などが解決された。

ですから、偏見をなくして、彼らをもっと了解して、彼らを受け入れてほしいです。



③ 「日本で作るおいしいインドネシア料理」

モ ラフィー (インドネシア)

皆さん、こんにちは。

私は、会社の田無の寮で、インドネシアから来た仲間たち35人と一緒に生活しています。

寮の生活で一番大変なのは、料理をつくることです。国ではお母さんがつくった料理を食べていましたが、日本にきてからは自分たちでつくるしかありません。また、料理は、イスラムでハラルと認められた料理をつくらなければなりません。インドネシアの料理は、香辛料をたくさん使ったナシゴレンやレンダンなど、おいしい料理がたくさんあります。今回のスピーチでは、寮での生活とレンダンというインドネシア料理を皆さんに紹介したいと思います。

たくさんの香辛料からつくられる料理です。基本的には少し
辛いですが、甘辛い味のレンダンもあります。作り方は複雑
ですごく時間がかかります。なので、途中でつまらなくならな
いように、歌を歌いながらレンダンをつくっています。

どんな歌なのか、皆さん聞きたいですか？この歌は、インド
ネシアの西ジャワ地方の歌です。歌はこんな感じです。

“ naha abong-abong teuing, nasib abdi jadi hewan,
digawekeun beurang peuting dirangket taya rasrasan”

歌い終わるころにはレンダンはもうでき上がっています。炊
き立ての白いご飯と一緒に食べます。とてもおいしいです。
日本でインドネシアの調味料を見つけるのはそれほど難しく
なくて便利です。どんな調味料もあるので、レンダンだけでは
なくて、いろいろな料理をつくることができます。

イスラムでは、idul fitri という、新年をお祝いする大切な日
があります。idul の日になったらみんなはうれしくなります。
なぜかという、idul fitri は断食明けのお祝いの日だからです。

イスラムでは、1年に一度ラマダンという断食月があります。
ラマダンの間は夜しか食事ができませんから、昼間に食事を
するのは久しぶりになります。会社の寮でもみんなと一緒に
料理をつくって一緒に食事をします。とても楽しい時間です。

寮で生活するのは料理をつくるだけではなくて、日本語の
勉強をはじめとして、ほかの活動もあります。たとえば、休
みの日には友達と新大久保に料理の材料を買いに行ったり、川
でキャンプをしたりします。寮の友達は家族のようです。
両親と別れて暮らすのはさびしいけれど、国の家族のために
がんばるしかありません。



④ 「人生の旅、他人にペースを乱されないように」

はん こい (中国)
范 子怡

みな 皆様さん、こんにちは。どうぞ宜しくお願い致します。

わたし 子供 頃、父によく言われたのは、「焦るな、ゆっくりやいなさい」

私はせっかちな人間として育ったため、昔はもちろん、今でも、物事を考えず、とにかく早く終わらせたいと思っています。例えば、旅行に行くたびに、予定していた人気スポットに直行し、写真を撮っていますが、その途中の風景にはめもくれません。

このような性格なので、常に立ち止まって周囲の美しさを味わうことができませんでした。

私はゆっくり人生を楽しめるようになったのは、日本に来てからです。家から何百キロもはなれて、初めて1人暮らしを始めた私にとって大変でした。そのため日本に来てからの毎日を大切して、生活しています。

日本に来たばかりの頃は、かなり都心から遠く離れたところに住んでいました。家から最も近いコンビニは歩いて10分くらい、スーパーはさらに遠いところにありました。出来るだけお金を節約するため、自転車も買うことがせず、スーパーを探すために同じ場所をずっと歩き回ったり、通りすぎり女子高校生たちに勇気を出して拙い日本語で聞いたりしました。

「歩いて30分くらいのところにありますよ」女子高生が自転車から降りて、徒歩で私と一緒に話ししながらスーパーまで付き合ってくれました。小さなことですが、私の心は温められました。日本に生活している間に、このようなことが身の回りにたくさんあること驚き、感動しました。



が い こ く
外国で 1 人暮らしをしていると、人からのちょっとした
しんせつ
親切がその日の嫌な気分を払拭してくれるような気はします。

焦ることに慣れている人が、ゆっくりと自分を見つめなお
すことで、より美しいものを見ることが出来るのではないで
しょうか。

いじょう はっぴょう お
以上で私の発表を終わりにします。最後まで聞いていただき、
まこと
誠にありがとうございました。



西東京市日本語スピーチコンテスト 2021
～プログラム～
2021年10月3日(日)午後1時30分より オンラインにて

13:30 開 演	14:00 日本語スピーチ 1-7
開演挨拶 西東京市長 山田 浩樹	14:40 審査/発表者へインタビュー
あいさつ 西東京市長 北条 隆子	15:00 表彰式
西東京市立図書館 協賛 協賛	審査結果発表・記念品授与
(特別出演) 15:30 閉 演	

◆日本語スピーチ

1. 審査 「日本で生きていくこと」 中級
19歳、2016年1月に来日しました。今は東京経済大学コミュニケーション学部の1年生です。
2. 李 真 「陳がい唐への帰国はどこから生まれるのか」 中級
東京デザイナー学院に通っています。日本のデザイン、イラストや建築の興味を持って興味があります。
3. モ ラフィー 「日本で作るおいしいインドネシア料理」 イントネシア
調理はマッカーです。インドネシアのことからみんなに知ってもらいたいので発表しました。
4. 田 子怡 「人生の軌、他人にベースを私を私をいよう」 中級
中国から来ました。2018年に日本に来て、日本語学校で勉強して、今は西東京大学2年生です。
5. レ ティ フアン 「私と日本語」 ベトナム
2018年にベトナムから来ました。勉強好きです。よろしくお伝えします。
6. 藤 静香 「日本の文化を学ぶこととは」 初級
早稲田大学で勉強しています。音楽が大好き、ピアノ、アーム、映画などのいろいろあります。
7. ニューナム サリーアン 「言葉で変わった私と私の付き合い」 イタリシアメリカ
アメリカに10年間通って毎年日本に来りました。日本人と結婚して、まだの娘がいます。

【主 催】
NPO法人西東京市多文化共生センター（西東京市）
【協 賛】 【後 援】
西東京市 西東京大学

ただいま、飛散防止パネル、
マイク、譜面台を消毒して
います。
しばらくお待ちください。

発表者の交代時は丁寧な消毒時間
オンライン参加の皆さまへのお知らせ

西東京市長賞

⑤ わたし にほんご 私と日本語

レ ティ ヴァン (ベトナム)

私はレ ティ ヴァンです。ベトナムから来ました。今から「私と日本語」についてスピーチをしますから聞いてください。

日本に来る前に私は日本のテレビをいっぱい見ました。その中で一番感動したのはドラえもんです。ドラえもんの映画もよく見ました。そして、その話のおかげで、日本人の文化と習慣を知るようになりました。それに日本には桜がたくさんあるし、とても美しい国だと思いました。

それ以来、時間があれば、テレビと携帯で日本のことをよく調べました。調べれば調べるほど日本がもっと好きになりました。いつか自分の目で日本の美しさを見るのをずっと望んでいました。

そして、それは私が27歳になった時に現実になりました。

2018年10月15日に技能実習生として日本に働きに来ました。

みなさん、日本に来て一番最初に見て驚いたものは何ですか？私にとってそれはトイレの静けさと清潔さでした。そして、道路もきれいです。

そのほか雪でした。初めて雪を見て、雪を触って、雪の冷たさを感じたことで私はもっと日本が好きになりました。

しかし、日本に住んで最初のころは仕事を辞めてベトナムに帰ろうと思っていました。ベトナムには家族も友達もいるので、困ったことがあったら応援して助けてくれる人がいつもそばにいました。しかし日本では私は一人で暮らさなければなりません。どんな苦労でも自分で解決しないとイケないのです。



ベトナムの母を心配させたくないのに、^{はは しんぱい} 悲しい話^{かな はなし}があっても、
一人^{ひとり がまん}で我慢^{だれ い}していました。誰にも言えなかった。その頃は私の
日本語はまだまだだったので、みんなとのコミュニケーション^{だれ き}
ンが難^{むずか}しかったです。道に迷^{みち まよ}うこともありましたが誰にも聞^{だれ き}
けず、思^{おも}い出^だして帰^{かえ}り道^{みち}を見つけるしかありませんでした。そ
の間^{あいだ}は本当^{ほんとう}にストレス^{たいへん}がたまり、とても大変^{たいへん}でした。
そのため^{じぶん なに}に私は自分で何かをしなければならぬと思^{おも}いまし
た。そして、日本語^{べんきょう}を勉強^{けっしん}しようと思^{おも}いました。日本語を
学^{まな}べば人生^{じんせい}がもっと楽^{たの}くなるのではないかと思^{おも}いました。
やっぱりその通り^{とお}でした。少し^{すこ}ずつですが周^{まわ}りの人と日本語
でコミュニケーション^とが取^とれるようになると友^{とも}達^{だち}が増^ふえて、
喜^{よろこ}びも増^ましました。そして、すべてのストレス^{たいへん}が取^とれました。
日本語を学^{まな}んだおかげで私は前^{まへ}より成長^{せいちょう}しました。そして、
仕事^{しごと}を辞^{やめ}めてベトナムに帰^{かえ}ろうと思^{おも}っていた私^{わたし}ですが、今^{いま}
では日本^{にっぽん}にもっと長^{なが}く住^すみたいと思^{おも}っています。
ありがとうございました。

⑥ 「日本の文化を学ぶことは大切だ」

鄒 詠軒 (台湾)

みなさん、こんにちは。私^{わたし}はシュエイケンと申^{もう}します。去年^{きょねん}
の十月^{じゅうがつ}に台湾^{たいわん}の新竹^{しんちく}からきました。
今日^{きょう}は、日本^{にっぽん}の文化^{ぶんか}を学^{まな}ぶことの大^{たい}切^{せつ}さについて話^{はな}します。
高校^{こうこう}の時^{とき}、学校^{がっこう}で一緒^{いっしょ}に北海道^{ほっかいどう}へ行^いきました。その時^{とき}、日本^{にっぽん}
のタクシ^のーに乗^にりました。日本^{にっぽん}のタクシ^のーのドア^のは自動^{じどう}で開^あ
けし、閉^しめしてくれると運^{うんてん}転^{しゆ}手^いさんと言^いいました。もし自分^{じぶん}で閉^し
めたら、自動^{じどう}のドア^のが故障^{こしょう}するかもしれませぬ。台湾^{たいわん}のタクシ^の
ーは自分^{じぶん}で閉^しめますから、日本^{にっぽん}では注意^{ちゅうい}しないとタクシ^の
ーの運^{うんてん}転^{しゆ}手^いさんに迷^{めい}惑^{わく}をかけます。



また、日本にほんに来てびっくりにしたのはトイレみちと道がとてもきれいだっただけです。コンビニえきのトイレも、駅えきのトイレもとてもきれいです。台湾にほんのトイレは日本よりきれいではありません。なぜ日本にほんのトイレはそんなにきれいですか。多分日本国民たぶんの道徳心たぶんの高さと小さい頃たぶんからの掃除教育たぶんが関係しているとおもいます。この日本にほんの清潔せいけつさは、世界せかいでも有名ゆうめいだとおもいます。

タクシーほかのことにせよ、トイレしょうしゃのことにせよ、他の使用者ほかのためにという考えかんががあります。その意識いしきは私わたしにとって、とても尊敬そんけいしていることちいです。小さいところにちじょうせいでも日常生活にちじょうせいでも、その意識いしきや優しい気持ちやさなどに気づきかなかったこときもあるので、私わたしも人ひとのためこうどうに行動こうどうできるようこうどうになりたいです。

日本にほんと台湾ぶんかは文化しゅうかんや習慣ちがなどいろいろ違うこときに気が付ききます。日本にほんの文化ぶんかをもっと知らなければ日本にほんで他の人ひとに迷惑めいわくをかけてしまうぶんかかもしれませんから文化まなを学まなばなければなりません。日本語にほんごをまなぶことにほんじんだけでなく、日本人にほんじんと交流こうりゅうして、日本文化にほんぶんかや習慣しゅうかんも学まなびたいです。失敗しっばいしても挫折ざせつして

も向き合むいたいです。ことわざあにあるように、失敗しっばいは成功せいこうの母はです。立派りっぱな大人おとなになるように、他の人たに迷惑ひとを掛めいわくけない人間かになるように、みなさん、これからにんげんもよろしくお願ねがいします。

これで、私わたしのスピーチおを終わおります。ご清聴せいちょうありがとうせいちょうございました。



⑦ 洋裁で変わった私と服の付き合い

ニューンハム サリーアン
(イギリス/アメリカ)

私が洋服を縫い始めたのは2年前です。母が新しいミシンを買ったので、古い方を私に譲ってくれました。以前、母と一緒にキルトを作ったことがあったので、ミシンの糸の通し方や針の替え方は少し知っていました。なぜ洋服を縫おうと思ったのか、はっきりとは覚えていませんが、最初に作ったのはワンピースでした。糸の色を間違えてしまったので、線がまっすぐでないのは明らかでした。そしてアパレル用の生地ではなく、キルティング用の生地で作ろうとしたので、手作り感がありました。それでも、作るのはとても楽しかった。集中していると、瞑想のようでストレスを感じていることを忘れてリラックスできるからです。そこで、YouTube のチュートリアルを見て勉強

するようになりました。縫い物は折り紙と同じで、正確に縫えば縫うほど良い洋服が作れる。自分がどれだけ上手に縫えるかがもう一つの楽しみでした。若い頃に自分用のドレスを縫ったことのある母が再び趣味を持ち、洋裁が私たちの共通の趣味になりました。毎週、私たちは連絡を取り合い、お勧めのパターンやテクニックを交換したり、作っているものを見せ合ったりしています。



縫っているうちに、服との付き合い方が変わってきたことに気づきました。衣服を縫うのは時間のかかる作業です。適切な生地を選び、縮まないように洗濯し、型紙をピンで固定して切り取り、そして縫い合わせるのは少なくとも数日はかかります。そのため、私たちは自分たちが作りたいものをじっくりと考えています。私達の色や形の好みをわかってきました。また、自分らしさを表現するために世界にひとつだけのものを作ろうとするからこそ、大切に扱うようになりました。ある日、私たちはちょっと極端な決断をしました。1年間、新しい服を買わずに、服を作ることだけにしよう決めました。以前はバーゲンで買い物をするのが好きでしたが、縫い始めてから、今の社会の洋服との付き合い方に問題があることに気づきました。たった20年間だけでも、私たちが買っている衣類の量は60%増えてきたが、着る回数が減っています。一人が一年に買う服の数は平均して67枚ですが、一着の平均着用回数は7回です。安くて質の悪いファストファッション服がこの

傾向を引き起こしています。衣類が安価で粗悪な作りだと、すぐに流行遅れになってしまうと、修理、再販や寄付をするインセンティブが働かず、捨てられてしまいます。このたった7回しか着られない服は多くの資源や労働の被害と考ええると、とてももったいない気持ちになります。例えば、ペットボトルと同じように石油からできているポリエステルシャツはCO₂が発生するし、分解されない。洗濯するとマイクロプラスチック繊維が放出されます。綿のTシャツ1枚を作るのに、2~4年分の飲料水が必要です。肥料や殺虫剤が水路を汚染し、人々を病気にします。この服は数円で売られているのはおかしいではないでしょうか。地球は私たちのニーズを満たすのに十分な資源を持っていますが、すべての欲求を満たすことはできないと言われていています。このままでは2050年には地球3個分の資源が必要になると言われています。明らかに服との付き合いを考え直す必要はあるのではないのでしょうか。

理想的な世界では、私たちは必要なものだけを買います。いくつかの実用的な服しか持たないでしょう。みんなは服を買うのをやめて、今ある古着で生活するようになれるでしょう。でも、これをするのはそんなに容易ではありません。私たちの衣服に対する欲求は、根強い。どうしてでしょう。

衣服は単に体に着せるだけのものではなく、社会的なものです。場面に合っていない服を着てしまって不快な思いをしたことはありませんか？ イギリスのカジノのようにフォーマルな服装が必要なのかと思って、アメリカのカジノに黒いドレスを着て行ったら、他の人たちはジーンズにTシャツのようなカジュアルな服装だったことがあります。私たちはどうしてもどう見られているかを気にして、皆と同じような服を着たくなってしまう。また、人間は物を使うことができる能力が、私たちに種としての成功をもたらしましたから人間は生物学的に物質主義かもしれない。甘いものを欲しがる本能と同じように、

服を欲しがる本能は資源が乏しいときには役に立てたが、資源が豊富な現在では私たちの弱点になっています。少ない服でも満足できるようになるにはどうしたらいいか？

昔の人は布の価値を知っていたので、長持ちさせる工夫をしていました。例えば日本の着物は、太っていても痩せていても身長が伸びても、縮んでも、まだまだ着られるでしょう。衣服は修理され、それができなくなる時、雑巾として使いました。これは日本人がお茶碗の中のお米を一粒残らず食べる習慣に似ていると思いませんか。洋服を米粒のように考えてみたらどうでしょうか？

すでに持っている服の寿命を延ばすことができれば、資源の使用量を減らすことができます。買い物をするときには、その服を捨てる前に、何回くらい使えそうかを考えてみましょう。30回を目安にするといいでしょう。もちろん、粗悪な服はおすす

めできませんが、高価なものでも一度も着ないのであればもっ
たいないですね。母は良いお皿を持っていましたが特別な日
のために取っておくのではなく、イチゴと金色のペイントが
剥げ落ちるまで毎日使っていました。他の人たちは、彼女が私
達（子供）にそれを使わせてくれたことにショックを受けてい
ましたが、その理由がわかりました。永遠に続くものはありま
せんから、すべてを最大限に楽しむのが一番です。

夫が何年も前に買ったものをクローゼットから取り出して、
まるで買ったばかりのように「これはいいと思いませんか」と
私にコメントします。以前、私は、この習慣を笑っていましたが、
その重要性を理解するようになりました。これが彼の「い
ただきます」。服を着るときにこのような感謝の気持ちを表す
と、服に対してどんな気持ちを持つようになるだろうか。研究
によると、感謝の気持ちを持つことで、脳がより幸せになるよ
うに書き換えられるそうです。買い物で得られるエンドルフィ

ンは、3日程度しか続きませんが「いただきます」の気持ちが
続けられるでしょう。

私たちの1年間のチャレンジの結果を知りたいと思うでしょ
う。結局母が勝ちました。彼女はレインジャケットを買っただ
けです。私はワンピース、ウールのズボン、そして美しいブル
ーのスカートを買いました。これらのアイテムは、何度着たか
わからないほどよく着ています。皆さんも挑戦してみませんか？



会場の風景



控室で市長のご挨拶を聞く発表者たち



オンライン配信をしている発表会場



次の発表を待つ発表者と控室を見守るスタッフ



緊張の面持ちの実行委員長



入念な準備でのぞむ司会者



皆さまと会場をつなぐ配信スタッフ



発表を見守るスタッフ・市職員

表彰式



審査結果待ちはドキドキ



三賞の授与につづき、
皆さんの健闘を称え、全員に敢闘賞



西東京市日本語スピーチコンテスト2021



実行委員長から賞状を
受け取る受賞者たち

西東京市長賞



レティ ヴァンさん

武蔵野大学学長賞



ニューンハム サリーアンさん

NIMIC賞



モ ラフィーさん

**第10回 西東京市
日本語スピーチコンテスト2021**

**2021年10月3日(日)
13:30~15:30**

オンラインライブ開催(Zoom) 事前申込制(下記参照)

西東京市とかかわる外国人の皆さんが日本で生活して感じたことや考えたこと、母国への思いを日本語でスピーチします。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

観覧(Zoom)申し込み方法
西東京市多文化共生センターまで、メール(宛先:info@nimic.jp、件名:日本語スピーチコンテスト2021)で以下の①~④についてご連絡ください。
①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号 ④メールアドレス
*申込締切りは9月22日(水)です。定員(40名)になり次第受付終了といたします。

- 当日は、Zoomを用いて開催します。観覧には、各自通信機器とインターネットへの接続環境が必要です。
- 観覧される方には、Zoom参加用のIDとパスワードをメールでご案内します。

【問い合わせ先】
*西東京市多文化共生センター 電話・FAX 042-461-0381

- ともに住み、ともに生きる -
主催：NPO法人 西東京市多文化共生センター (NIMIC)
共催：西東京市 (担当：生活文化スポーツ部文化振興課 電話 042-420-2817)



**第10回西東京市
日本語スピーチコンテスト2021**

10/3(日)

発表者募集!

はっぴょうしゃほしゅう

日本で生活して感じたこと、考えたこと、母国へ思い、西東京市とのつながりなど、日本語でスピーチしてみませんか?
日本語やスピーチが上手かどうかのコンテストではありません。

- 応募できる人 西東京市で生活(仕事や勉強など)している日本語を母語としない方(16歳以上)
- 応募締め切り 8月6日(金) 当日消印有効
- スピーチ時間 6分以内
- 日 時 令和3年10月3日(日) 午後1時30分 ~ 3時30分
- 場 所 コール田無 多目的ホール (田無駅北口 徒歩7分)

***新しいコロナウイルスの病気の人が増えたとき、オンラインに変わることがあります。**

- 定 員 8名(応募者多数のときは、内容や国籍、年齢がかならないように決めます)
- 応募方法 下の①から⑥を書いて 西東京市多文化共生センターまで Eメールまたは郵送(件名:スピーチコンテスト発表者)で送ってください。

①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号 ④年齢⑤性別 ⑥所属(勤務先・学校・日本語教室など)の自己紹介 ⑦スピーチタイトルと概要(200字以内)

問い合わせ先
西東京市多文化共生センター
Eメール info@nimic.jp
☎ & FAX 042-461-0381
〒188-0012 西東京市南 町5-6-18 イングビル1F

主催 NPO法人西東京市多文化共生センター (NIMIC)
共催 西東京市生活文化スポーツ部文化振興課
☎ 042-438-4040 FAX 042-438-2021



【協力】

世界の幸せをカタチにする。

Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University

本学のイニシャル「MU」の文字を、螺旋(らせん)を描くようにデザインしたブランドマークは、感性・知恵・豊創力の繋がり、人々の運命と未来への永続性を表しています。ブランドマークの中央にある地球は、世界的な視座を持つことの重要性を表しています。さまざまな色に変化するマルチカラーは、学生、教職員、本学に関わりのあるすべての人々が生み出す多彩な「世界の幸せのカタチ」を表しています。

武蔵野大学・大学院

武蔵野大学中学校・高等学校

武蔵野大学附属千代田高等学院

千代田国際中学校 (2022年度より校名変更予定)

武蔵野大学附属幼稚園

武蔵野大学附属慈光保育園

武蔵野大学附属有明こども園



<https://www.musashino-u.ac.jp>

武蔵野大学 武蔵野キャンパス

〒202-8585 東京都西東京市新町 1-1-20

Tel. 042-468-3114 (代)

【主催】



ーともに住み、ともに生きるー

NPO法人西東京市多文化共生センター
(通称、NIMIC (ニミック))

異なる背景を持つ人々が、互いの違いを理解し尊重し合って共に地域で暮らす「多文化共生」のまちを目指して、活動しています。

「外国人にとって住みやすいまちは、みんなが住みやすいまち」と考え、外国人支援、交流の場づくり、受け入れる地域社会の啓発活動を行っています。

市の外国人相談
窓口 西東京市
多文化共生セン
ターを、市からの
委託を受けて運営
しています。



〒188-0012

東京都西東京市南町5-6-18 インゲビル1F

E-mail : info@nimic.jp

HP : <https://www.nimic.jp/>

FB : www.facebook.com/nimic.nishitokyo



西東京市日本語スピーチコンテスト2021

2021年11月発行

編集・発行： NPO法人西東京市多文化共生センター
連絡先： 〒188-0012 東京都西東京市南町5-6-18
Tel/Fax： 042 (461) 0381
E-mail： info@nimic.jp

実行委員： 石坂みどり 岩野英子 大村 正 加藤祐子 櫻井裕子
塩津みつ代 高橋二郎 竹村正和 田辺俊介 田村久教
中村純恵 馬縹亜紀子 山辺真理子